

少し酷な言い方かもしれませんが、私どもの人生のいつの時代も「これでいいのだ」「これで十分」「これで満足」などということはないのです。私どもはいつも、いつまでも不完全、不安定、未知の中に生きています。

子育てにおいてもそうではありませんか。これでよかったのか、このままでよいのか、迷いますよね。子どもは「親の思い通りには育たない」が実際です。

ですから、子どもの来ればかりを気にして、また親御さんの期待が勝ちすぎて、目の前の子どもの今の姿が見えにくくなりがちです。

時には言葉でなく、子どもの言い分を黙って、最後まで聞いてあげたりの親御さんの忍耐が必要です。子育ては根気のいる大仕事ですね。

・・・ある講演から・・・「思いつきり叱れ、ただし100倍ほめよ」・・・

◎よい叱り方・真剣に・子どもの目を見て・・・

1. 具体的に「ここが、この点が」とはっきり指摘する。
2. 感情を入れない・怒りでなく、愛情をもって
3. 過去を引きずらない・「前もあんたは・・・」禁句
4. 未来に引き伸ばさない・「〇〇さんみたいになるよ」はダメ。

◎100倍 ほめよ・・・

1. 他の子供と比較しない。あんたはかけがえのない私の子。
 2. 大好きメッセージを、スキンシップを何度でも。
 3. 「素晴らしい」「すごいやん」「おかあちゃん、うれしいなあ」などオーバーに表現。
- * やはり褒め上手が子育て上手、わたしども互いの関係の得策。
- * 褒められた行動も、叱られた行動も繰り返す・・・人間の習性。

愛は辛抱強い。情け深い。ねたまない。

愛は自慢せず、高ぶらない

新約聖書 第1コリント 13:4